



埼玉県のマスコット コバトン

埼玉県 獣医師会 会報

第 627 号

平成28年 1 月20日編集

発 行 所
公益社団法人 埼玉県獣医師会
〒330-0835 さいたま市大宮区北袋町1-340
(埼玉県農業共済会館内)
電 話 048(645) 1 9 0 6
F A X 048(648) 1 8 6 5
E-mail : s-vma@vesta.ocn.ne.jp
URL : <http://www.saitama-vma.org/>
振替口座 00110 - 9 - 195954番

発行責任者 高 橋 三 男

編集責任者 大 橋 邦 啓

印 刷 所 (株)アサヒコミュニケーションズ

記 事 の 内 容

新年の御挨拶	1
平成27年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会 開催報告	4
韓国における口蹄疫疑い事例の確認に ついて	8
一般財団法人化学及血清療法研究所に 対する行政処分とワクチン等の 供給等について	8

会務報告

第 5 回理事会	9
----------	---

予告

西支部学術講習会のお知らせ①	10
西支部学術講習会のお知らせ②	10
さいたま市支部学術講習会のお知らせ	11

新入会員報告

新入会員紹介	11
--------	----

ひろば

新入会員の抱負	12
さいたま市支部学術講習会開催報告	12
西支部学術講習会開催報告	13

お知らせ

平成27年度日本獣医師会委託講習会 (小動物臨床：東京都担当)開催の お知らせ	13
平成27年度日本獣医師会委託講習会 (獣医公衆衛生：神奈川県担当) 開催のお知らせ	14
横浜市獣医師会「市民フォーラム」 開催のお知らせ	14

切り抜きニュース

○自由気まま 猫人気上昇	15
○パリで活躍「猫の画家」 － 藤田嗣治「犬も好き」	15
○卵値上がり中 － えさ代高騰、「優等生」返上？	16

埼玉県獣医師会学術広報版

事務局より

事務局メモ	18
-------	----

編集後記

公益社団法人 埼玉県獣医師会 会員憲章

わたくしたち埼玉県獣医師会会員は、それぞれの職域において、その責務を遂行し、県民の福祉増進に寄与するため、ここに会員憲章を定めます。

わたくしたち埼玉県獣医師会会員は

1. 動物の生命を守り、ひとびとの生活を豊かにしよう
1. 獣医学術を研鑽向上し、確信を持って業務に邁進しよう
1. 動物愛護思想を向上し、心豊かな生活をしよう
1. 環境衛生を向上し、福祉増進の実をあげよう
1. 職域を尊重し、倫理の昂揚をはかろう



新年の御挨拶

公益社団法人 埼玉県獣医師会

会長 高橋 三男

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご健勝にて希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日ごろから本会の業務運営に対しまして、深い御理解と温かい御支援を賜っておりますことに厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年は、埼玉県に関係するお二人の博士がノーベル賞を受賞されました。そのお一人は、本県出身の梶田隆章博士で、ノーベル物理学賞を受賞されました。梶田博士は本県東松山市のご出身で、東松山南中学校、県立川越高等学校、埼玉大学と、県内の学校で基礎を学ばれた後、東京大学へ進まれ、今日の栄誉を獲得されました。本県出身の博士がノーベル賞を受賞されるのは初めてのことであり、埼玉県人にとっては誠にうれしく、誇らしい出来事でありました。

また、もう一人の生理学・医学賞を受賞された大村智博士も本県にゆかりの深い方で、北本市にある北里大学メディカルセンターの設立に関わったほか、我々、獣医師会にとって、最も身近な研究をされており、この研究成果によって栄誉を獲得された方であります。大村博士は1979年に「エバメクチン」を発見され、これが基で「寄生虫による感染症に対する新しい治療法」の開発につながっていきました。その結果、81年には家畜用の抗寄生虫薬である「イベルメクチン」が発売され、動物の寄生虫駆除薬として、フィラリア症の予防薬として画期的な貢献をしました。

このフィラリア症の減少により犬の寿命が延びることとなり、その寿命が延びることで高齢化が進み、その高齢化で腫瘍や心臓病などの疾患が増え、その研究によって獣医学の新たな分野の研究が開始されるきっかけともなりました。

そして、昨年は、この私も、長年にわたり、畜産振興・公衆衛生の向上・食肉の安全性確保・動物愛護精神の向上など、幅広い分野で獣医療の発展に取り組んできた功績が認められて「埼玉文化

賞」受賞の栄に浴することができました。また、ノーベル賞を受賞された梶田隆章さんは「特別賞」を受賞され、この受賞式は華やかな式典となり、ここに私が同席できたことは誠に光栄の至りであります。

しかし、その一方で、一昨年の暮れから昨年の新年にかけましては、九州地方を中心とした養鶏場で高病原性鳥インフルエンザや本県などでは豚流行性の下痢が発生しました。高病原性鳥インフルエンザの感染源は、昨年の11月に農林水産省の研究チームによって、シベリアからの渡り鳥であることがわかってまいりました。農家の皆様にとりましては、この渡り鳥からの回避策をとらなくてはなりません、大変困難な管理を強いられることとなり、心配をしています。

また、狂犬病につきましても、長年、清浄地域であった台湾で、3年前以降、野生動物に感染が確認されております。狂犬病や高病原性鳥インフルエンザをはじめとする「人と動物の共通感染症」は、世界各地で発生が続いており、その流行防止対策が喫緊の課題となっております。さらに「食品の安全性確保」への関心も益々、高まってきており、人と動物の健康を担う医師と獣医師が密接に連携し、安全で安心な社会を構築することが今こそ求められています。

こうした中、昨年の九月には、関東・東北地方を中心に大雨が降り大変な被害が発生しました。特に、茨城県では、人と動物が一緒に自衛隊員によって救出され、これまでの人命救助優先のイメージから、動物も人間も命の重さは一緒なんだという、初めての認識が示されました。

私は、このことが一番、印象深く心に残っており、一昨年、埼玉県獣医師会と埼玉県医師会とが協定を締結した時の理念である「人と動物の健康は一つ。そして、それは地球の願い」との思いを一層強く持つようになり、これまで以上に医師と獣医師が緊密に連携して、課題解決に取り組む必

要があると実感いたしているところであります。

埼玉県獣医師会といたしましては、これまでも「今ある命を大切に、また、無駄な命を増やさない」をモットーに、動物福祉・愛護への考え方の普及を図ってまいりました。これからも、より、人と動物が共存する豊かな社会の実現が図られるよう努力してまいりたいと考えています。

我が国は、これから、少子高齢化が一段と進み、人口が減少していくことが推計されており、これに伴い、国民の生活様式や価値観も大きく変化していくものと思われます。また、高齢社会となって介護が増えてまいりますが、その一助として、動物との触れ合いも増えてくるものと思われます。私は動物の役割がますます重要になってくるため、改めて人と動物が共存して、豊かな社会が築いていけるようにしていきたいと考えています。そのためにも、獣医師会と医師会とが連携して、人と動物の共通感染症から国民と動物を共に守り、双方が安心して暮らしていける社会にしていきたいです。

私は、埼玉県獣医師会が公益団体として今後とも県民の期待に応えてまいりますため、引き続き、会員の皆様とともに、次の点に努力してまいりたいと考えております。

私たち埼玉県獣医師会は、

- 1 社会から期待され信頼される公益団体を目指すとともに、これまでの活動で培ってきた伝統を受け継ぎながら、新しい時代に向けた適切な会務運営に努めてまいります。
 - 2 あらゆる機会を捉えて、獣医師及び獣医師会の果たす社会的使命や役割を広く情報発信するとともに、施策提言に努めてまいります。
- また、「獣医師の誓いー95年宣言」、「埼玉県獣医師会員憲章」並びに「獣医師会活動指針」に則り、会員の法令順守と獣医師職業倫理の高揚を図ってまいります。
- 3 国や県、市町村、また、埼玉県医師会などの関係団体と緊密に連携し、食の安全確保対策の推進や狂犬病等の人と動物の共通感染症の予防対策に適切に対応してまいります。

また、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病については、発生予防、迅速な通報と初動防疫及び飼養管理基準の遵守等につ

いて、行政機関と連携して指導に努めてまいります。

- 4 人と動物が共存する豊かな地域社会の実現を目指して「埼玉県動物愛護管理推進計画」の着実な推進を支援してまいります。

また、命の尊さを通じ豊かな感性を育てる学校動物飼育活動や動物福祉の増進等の取組を推進してまいります。

- 5 「災害時における愛護動物の救護活動に関する覚書」に基づき、埼玉県と連携して具体的な救護体制の整備に取り組んでまいります。

また、傷病野生鳥獣の保護管理につきましては、埼玉県の進める保護対策事業を推進し、生物多様性の保全を図ってまいります。

- 6 学術講習会や交流会等を積極的に開催するとともに、各種学会への会員の参加を支援することで、知識、技術の高位平準化を図り、その成果を広く県民に還元してまいります。

さらに、日本獣医師会の「獣医師生涯研修事業」については、本会が全国トップクラスの実績を誇っておりますことから、引き続き、会員の参加を促進してまいります。

- 7 彩の国畜産フェアや動物愛護フェスティバル、日本獣医師会主催の動物感謝デー等に積極的に参加し、獣医師会の果たす役割と会員の活動内容を広く県民に啓発してまいります。

今日、私たちには、獣医師会組織が一体となって解決を図らなければならない課題が山積しております。私は、日本獣医師会の関東地区選出理事並びに全国獣医師会会長会議の初代常設議長として、日本獣医師会と地方獣医師会とが連帯感をもって諸事業を推進し、課題解決に取り組めるように努力していきたいと考えております。

また、多様化した変革の時代にあっては、埼玉県獣医師会は、動物や人の健康など、人々の生活に直結した幅広い分野で活躍されておられる会員の皆様に「主役」に、会員相互の「絆」を深めながら、組織としての総合力を発揮していくことが重要となってまいります。

私たちは、昨日より今日、今日より明日と、日々「進歩」しておりますが、これからの時代は、進歩だけでは社会の期待に応えていくことはできません。進歩しつつも、組織の中で大きく変革し「進

化」していかなければなりません。

私は、これからも皆様とお互いに手を携え、常に「進歩と進化」を続け、組織のリーダーとして初心を忘れることなく、国や地方、県や市町村、更には政治や各種団体等、各界、各層と密接に連携を図りながら、「熟慮」、「決断」、「実行」をモットーに、新しい時代の潮流を見定め、期待される埼玉県獣医師会の構築のために全力で取り組んでまいります。

組織の舵取りを行っていくには「3つの目」が必要とされます。一つ目は、近づいて様々な角度から複眼的に物事を見る「虫の目」、二つ目は、高い位置から俯瞰的に全体を見回して物事を見直す「鳥の目」、そして、三つ目が、潮の流れを見る、つまり、時代の流れを読む「魚（さかな）の目」です。私は、常にこの「3つの目」の視点を持って、今後とも会の運営に努力してまいりますので、皆様の一層の御支援をお願い致します。

今年は申年です。

そもそも、干支の「申」は「猿」と関係なく、干支の十二支を広く庶民にも理解してもらうために、「申」に動物の「猿」を割り当てたといわれています。十二支というのは農業との関わりが強く、作物を育てる際の季節や天候の目安として利用していたそうです。「申」は十二支の9番目になりますが、その意味としては「伸ばす」で、「草木が十分に伸びきった時期で、実が成熟して香りと味がそなわり、固く殻におおわれていく時期」をいうそうです。

埼玉県獣医師会もこの意味に因んで、団結力をもって大いに組織を伸ばし、一層強固なものにする年にしていきたいと願っております。

今年は、消費税が8%から10%となり、そのことで物価の上昇や景気の低迷も考えられますが、会員の皆様にとりまして、本年が希望に満ち、健康で平和に過ごせる一年となりますことを心からお祈り申し上げ、私の新年の御挨拶とさせていただきます。

広告

松研の動物用生物学的製剤



こわい狂犬病から
ぼくをまもってね

■ 松研狂犬病TCワクチン

動物用医薬品

要指示医薬品

豚用ワクチン

- 松研豚丹毒生ワクチン
- ポーシリス APP-N
- ポーシリス ERY
- ポーシリス STREPSUIS
- ポーシリス Begonia DF・10
- ポーシリス Begonia DF・50

水産用ワクチン

- M/バック レンサ 注
- M/バックイニエ
- 松研M/バック IPレンサ

家畜用抗毒素

- 破傷風血清

※豚用ワクチンは要指示医薬品です。

研究開発元 一般財団法人 松岡科学研究所
製造販売元 松研薬品工業株式会社



〒184-0003 東京都小金井市緑町5丁目19番21号
TEL: (042) 381-0075 FAX: (042) 381-0344
URL: <http://www32.ocn.ne.jp/~matsuken>
E-mail: matsuken@cf.mbn.or.jp

平成27年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会開催報告

平成27年12月25日(金) 午前9時30分から、さいたま市の「さいたま共済会館602」において、平成27年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会が開催されました。

この発表会は、家畜衛生及び家畜管理技術の改善向上に資することを目的に埼玉県農林部が毎年度、開催しているもので、農林部の獣医・畜産関係職員や埼玉県獣医師会等の関係者65名が参加して、県関係機関が実施した事業や調査研究等に関する成果発表と活発な討議が行われました。

1 開会

発表会は、野澤裕子畜産安全課主幹の司会で進行し、森尾博之埼玉県食品安全局長の主催者挨拶に続き、助言講師及び来賓の方々が御紹介されました。助言講師は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所の秋庭正人細菌・寄生虫研究領域 領域長補佐、一般財団法人日本生物科学研究所の土屋耕太郎法務担当部長、公益社団法人埼玉県獣医師会の高橋三男会長、中央家畜保健衛生所の須賀幸司所長、農業技術研究センターの上野敏昭副所長の5名の先生方で、また、来賓として埼玉県獣医師会の中村滋副会長と小暮一雄副会長が出席いたしました。



助言講師の先生方

前列左から 高橋三男埼玉県獣医師会会長、土屋耕太郎日本生物科学研究所法務担当部長、秋庭正人動物衛生研究所領域長補佐
後列左から 須賀幸司中央家畜保健衛生所所長、上野敏昭農業技術研究センター副所長

2 発表・討議

発表は3部で構成され、第1部が「家畜保健衛生所の運営及び家畜保健所の企画推進に関する業務」に関するもので5題の発表がありました。また、第2部の「家畜保健衛生所及び病性鑑定施設における家畜の保健衛生に関する試験及び調査成績」は11題、第3部の「家畜保健衛生所以外の畜産関係機関における試験、研究、調査成績」は2題であり、合計18演題の発表が午後3時40分まで行われました。

3 審査結果

発表終了後、助言者を代表して秋庭正人動物衛生研究所領域長補佐から審査結果の発表と講評をしていただきました。審査に当たっては、関東ブロックの発表会で力を発揮できる内容であることを視点に、本県代表として3題を選出したとの報告がありました。また、秋庭先生には、発表演題ごとに的確な講評をいただき、発表者にとって大変、参考となるものになりました。



来賓として出席された埼玉県獣医師会の中村滋副会長（左）と小暮一雄副会長

続いて、高橋三男埼玉県獣医師会会長から、御挨拶と埼玉県獣医師会長賞を発表していただきました。

高橋会長は、「今年は昨年よりも多い18演題の発表があり、大変意義深いものがあつた。第1部の発表では、現在、全国的に問題となっている牛の白血病と豚のオーエスキー病の清浄化対策など、家畜保健衛生所が取り組むべき内容が多く、第2部は、各種の症例報告の事例などが多かった。さらには、昨年発生したカラスの大量死についての発表もあり、野生鳥獣の保護に積極的に取り組んでいる獣医師会としては納得できるものであつた。

また、第3部は、秩父高原牧場の「超音波診断装置を活用した牛の繁殖管理」と農業技術研究センターの「母豚の暑熱ストレスによる繁殖成績低下を防ぐ手法の検討」の発表があつた。両者とも優れているので、更に知見を深められ、県内畜産農家に普及していただきたい。」と御挨拶され、埼玉県獣医師会長賞として、取組が斬新で学術的に優れている4題を選出した旨を報告していただきました。

4 表彰及び閉会

審査結果の発表後、関東甲信越ブロック業績発表会への本県代表に選出された3名には中島一郎畜産安全課長から、また、埼玉県獣医師会長賞に選出された4名については、高橋三男会長、中村滋副会長及び小暮一雄副会長から表彰状が授与され、午後4時40分に閉会となりました。



埼玉県獣医師会長賞の受賞者を囲んで

右から 中村滋副会長、受賞者の北島絵理子先生（中央家保）、中井悠華先生（中央家保）、高橋三男会長、受賞者の梅野杏奴先生（中央家保）、馬場未帆先生（川越家保）、小暮一雄副会長

表彰を受けた演題は次のとおりです。

《平成27年度関東甲信越ブロック家畜保健衛生業績発表会の本県代表演題》

1 演題名 乳質改善指導チームによる低酸度乳対策の取組 (川越家畜保健衛生所 増田杏菜ほか)

平成24年度から、家保、クーラーステーション (CS)、酪農家代表、臨床獣医師でチームを組織し、酪農家の乳質改善意識向上を推進。平成26年8月、県北地域のCSからの送乳が低酸度 (0.11%未満) のため、乳業メーカーがアルカリ洗浄水の混入を疑い搬入を止める事件が発生。チームで対策に取り組む。全戸のバルク乳調査で地域全体の酸度低下が判明したため、生乳取引は正常化した。原因究明の取組継続。酸度は、夏期に入り気温上昇すると低下、最高気温35℃、最低気温25℃以上で低酸度乳発生。夏期のみ気温と相関係数0.7以上の強い負の相関を確認。暑熱対策状況調査により、暑熱への意識の高い酪農家は低酸度乳生産割合が23%と、そうではない酪農家の67%に比べ低い。以上により低酸度乳は夏の猛暑が要因、適切な暑熱対策で発生を抑制できると考察。今後は、気温変化に応じた対策を定めた酪農家ごとのマニュアル作成など、きめ細かなチーム指導で乳質向上に努める。

2 演題名 *Moraxella bovoculi*による牛伝染性角結膜炎 (IBK) の発生及び保菌調査

(中央家畜保健衛生所 石原径佳ほか)

2015年1月に黒毛和種肥育牛1,500頭を飼育するフリーバーン牛舎で、2週間のうちに22頭が角結膜炎発症。発症牛2頭の眼結膜スワブを用いた細菌学的検査で、 β 様溶血を示すグラム陰性球桿菌を分離、生化学的性状及びPCR-RFLPから*Moraxella bovoculi* (*M.bovoculi*)と同定。同年6月と10月に、当該農場で無症状牛の保菌調査を実施。6月では、12頭中3頭から*M.bovoculi*、1頭から*Moraxella bovis* (*M.b*)を分離。10月では9頭調査し、両菌とも分離されず、保菌率は低下したと考察。当該農場の分離菌について1濃度ディスク拡散法で実施した薬剤感受性試験では、*M.bovoculi* 5株全てがSM、OTC、SMX・TMPに耐性、EMに中間の感受性。一方、*M.b* 1株は前述薬剤全てに感受性。IBKの原因菌は、*M.b*とされるが、今回、角結膜炎発症牛から優位に分離された*M.bovoculi*もIBKの原因菌になり得ると考察。また、当該農場で分離された*M.bovoculi*株は薬剤耐性傾向にあると推察。

3 演題名 牛白血病ウイルス感染が生産性に及ぼす影響 (中央家畜保健衛生所 畠中優唯)

牛白血病ウイルス (BLV) 感染が、乳質及び繁殖成績へ与える影響を調査。BLV抗体の有無をBLV感染の指標とし、県内1農場の平成26年10月～平成27年8月に実施した牛群検定成績について、統計分析を実施。当該農場の搾乳牛139頭の標準乳量、蛋白質率、無脂固形分率、乳脂率、乳汁中体細胞数 (SCC) を抗体の有無及び血液中リンパ球数で比較。さらに、分娩間隔、空胎日数、1受胎あたりの授精回数について、同農場の167頭の成績を、抗体の有無で比較。標準乳量、蛋白質率、無脂固形分率、授精回数は抗体の有無による統計学的有意差なし。一方、抗体陽性牛で、乳脂率が有意に低値、SCC増加傾向 (泌乳後期～末期)、分娩間隔及び空胎日数が延長傾向。また、リンパ球数の多い群でSCC増加傾向。過去の報告も合わせ、BLV感染が生産性に影響を与える可能性を示唆。要因として、BLV感染牛の免疫状態が関与したと推察。

《埼玉県獣医師会会長賞を受賞した演題》

1 演題名 廃業から経営継続となったオーエスキー病陽性農場の清浄化への取組

(川越家畜保健衛生所 馬場未帆ほか)

平成25年度管内のオーエスキー (AD) 野外抗体陽性 (陽性) 農場が、A農場1戸のみ。A農場は、26年

度廃業予定、27年度に管内AD清浄化を達成見込み。しかし、25年11月に、廃業から一転経営継続、急遽、清浄化に向けた濃密な指導に取組。A農場のAD抗体検査状況、23年度、繁殖母豚88%（44/50頭）が陽性、翌年、陰性の繁殖母豚67%（4/6頭）が陽転、肥育豚95%（19/20頭）が陽性の高度汚染状態。25年11月立入、ワクチン全頭接種、衛生対策強化、陰性農場から導入徹底、陽性豚の計画的淘汰指導。出荷肥育豚のと畜場採血（と場採血）の抗体検査、毎月1回の立入で、農場内個体管理及びワクチン接種、ピッグフロー状況確認。陽性母豚は、27年3月分娩を最後に、離乳後の5月に淘汰。以降、陽性母豚の移行抗体と思われる陽性以外は、新規導入繁殖豚及び出荷肥育豚で確認されず、今後も、継続的な抗体検査等で清浄性を確認、地域のADワクチン接種中止を検討し、早期清浄化を目指す。

2 演題名 管内一肉用鶏農家で発生した雛の緑膿菌感染症（中央家畜保健衛生所 梅野杏奴ほか）

平成27年8月、肉用鶏農場の1鶏舎で3日齢の雛（約6,400羽）が起立不能、斜頸等の症状を呈し、死亡・淘汰羽数は発生から10日間で約540羽。3日齢（4羽）及び5日齢（3羽）の発症雛で病性鑑定を実施。さらに同ロットにおいて片側性眼瞼腫脹が散見され、17日齢（2羽）で再度、病性鑑定を実施。組織検査では、全日齢で化膿性心外膜炎（6/9羽）、3日齢及び5日齢で化膿性髄膜脳炎（6/7羽）、17日齢で化膿性眼瞼炎（2/2羽）、化膿性肝炎（1/2羽）を確認。細菌検査で5日齢及び17日齢の脳及び肝臓から*Pseudomonas aeruginosa*（Pa）を分離、Pa感染症と診断。薬剤感受性試験に基づきエンロフロキシサシンを投与した結果、死亡率は改善。さらに衛生対策徹底とオールアウト後の洗浄消毒手順の見直しを指導。同ロットを導入した他農場で同様の報告がないため、輸送時又は到着直後の感染と考察。消毒効果確認のため、鶏舎拭き取り検査とその結果に基づく再指導を行った。

3 演題名 *Bordetella bronchiseptica*によるコアラの死亡事例と保菌調査結果

（中央家畜保健衛生所 中井悠華ほか）

当該園では、平成27年5月時点で、コアラ9頭を飼育。うち3頭は同年1月に豪州から輸入（ボルデテラワクチン接種済）。5月上旬から輸入個体1頭が呼吸器症状を示したが、回復。5月下旬から2頭が同症状を呈し、3～4日後に死亡したため、病性鑑定を実施。2頭に共通して、剖検時に大量の粘性鼻汁漏出、病理組織学的検査でグラム陰性桿菌を伴う化膿性気管支肺炎を確認。細菌学的検査で肺及び上部気道を中心に*Bordetella bronchiseptica*（以下Bb）を分離。以上から、死因をBb感染症と診断。同居個体に対し、抗菌剤投与等の対策を実施。さらに、投薬効果及びBb保菌状況確認のため、鼻腔スワブを用いた保菌調査を計3回実施。6月調査時に保菌を確認した3頭には、抗菌剤を投与したが、9月調査時にも同3頭で保菌が確認され、鼻腔内にBbが定着したと推定。続発例は現在のところ認められていないが、今後はワクチン接種を含めた発症予防対策が重要と考察。

4 演題名 県内各地で斃死した野生カラスの病性鑑定事例（中央家畜保健衛生所 北島絵理子ほか）

2014年12月30日から翌年1月13日に県内5か所で計138羽のカラスの死体が確認され、9羽の病性鑑定を実施。剖検時、腸管の漿膜はび漫性に暗赤色を呈し、小腸は著しく膨隆、空回腸で偽膜形成、脾腫を確認。病理組織学的検査で腸管全域に出血性壊死性腸炎を認め、病変は回腸が最も重度。腸管に寄生虫は認めず。肝臓及び脾臓に多発性巣状壊死。グラム染色で腸管の壊死部にグラム陽性の中～大型桿菌を少数確認。抗*Clostridium perfringens*（Cp）家兎血清を用いた免疫組織化学的検査で明瞭な陽性反応なし。細菌学的検査で2羽の脾臓からCp A型菌を分離。小腸内容定量培養を実施した4羽から同菌を $10^5 \sim 10^7$ cfu/g分離。鳥インフルエンザ簡易検査及びウイルス分離検査は陰性。消化管内容物の農薬等化学物質検査（計82項目）は未検出。以上から、本事例のカラスの腸管や脾臓の壊死性病変形成にCpが関与した可能性を示唆。

27日 獣 発 第305号
平成28年 1 月20日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会 長 藏 内 勇 夫
(公印及び契印の押印は省略)

韓国における口蹄疫疑い事例の確認について

このことについて、平成27年1月12日付け27消安第5076号をもって、農林水産省消費・安全局動物衛生課長から別添のとおり通知がありました。貴会関係者に周知方よろしくお願いいたします。

このたびの通知は、

- ①本年1月11日に、韓国家畜衛生当局から、全羅北（チョルラブク）道 金堤（キムジェ）市の豚飼育農場において口蹄疫の疑い事例が確認された旨の発表があったこと、
- ②さらに平成27年12月18日付け27日 獣 発 第275号で通知した「平成27年度の年末・年始及び春節における口蹄疫等に関する防疫対策の強化について」に記載のとおり、これから春節（2月8日）を迎えるに当たり、これまで以上に人の往来や物流も盛んになり、我が国への口蹄疫ウイルスの侵入リスクが高まることから、

都道府県知事に対し、改めて発生予防対策及び万が一の発生時のまん延防止対策に万全を期すよう依頼するとともに、今般の事例を受け、動物検疫所に対して水際検疫のより一層の徹底を指示している旨通知したので、了知の上、円滑な防疫対策の実施について協力を依頼されたものです。

※詳細（別添含む）については、日本獣医師会ホームページ（新着情報）をご覧ください。

27日 獣 発 第312号
平成28年 1 月28日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会 長 藏 内 勇 夫
(公印及び契印の押印は省略)

一般財団法人化学及血清療法研究所に対する行政処分と ワクチン等の供給等について

このことについて、平成28年1月20日付け事務連絡をもって、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長から別添のとおり通知がありました。

このたびの通知は、1月20日にメールで情報提供したとおり、同省では、一般財団法人化学及血清療法研究所に対し、30日間（1月26日～2月24日）の業務停止等の処分を行ったが、

- ①畜産の現場等で欠品等が生じる可能性が懸念される10製剤について、業務停止の対象から除外すること、
- ②業務停止対象の34製剤についても、業務停止期間中に家畜衛生上供給が必要となった場合は、追加で対象から除外すること、

とされ、必要な動物用ワクチン等の不足等、畜産現場に影響が生じないように、引き続き努める旨連絡されたものです。

つきましては、貴会関係者に周知方よろしくお願いいたします。

※詳細（別添含む）については、日本獣医師会ホームページ（新着情報）をご覧ください。

会 務 報 告**第 5 回 理 事 会**

平成27年12月15日(火)午後4時から、さいたま市岩槻区「寿々家」において次の事項を審議した。

1 会長挨拶

埼玉県獣医師会の公益事業の多くを狂犬病予防注射事業が占めている。この事業は市町村長と獣医師会との契約に基づき進める公益事業であり、1月22日の新春懇談会にはその市町村長を招待し、公的な事業として開催する。

2 報告事項**(1) 前理事会後に開催された委員会等に関する件**

各委員長から次のとおり報告された。

ア 狂犬病予防委員会 日本医師会との連携による「越境性感染症の現状と課題」シンポジウムへの参加について(11月6日)

イ 新入会員研修会 新入会員20名が出席し、獣医師倫理や法律手続きなどについて研修(11月20日)

ウ 第2回狂犬病予防委員会 「集合狂犬病予防注射実施者講習会」の開催並びに平成28年度集合狂犬病予防注射実施スケジュールについて(12月2日)

エ 獣医事調査委員会 1名について書面での審査(11月)

(2) 日本獣医師会と日本医師会との連携シンポジウム「越境性感染症の現状と課題」について本県から56名(うち開業が42名)が参加した旨が報告された。(11月6日)**3 議決事項****第1号議案 役員報酬の支給に関する件**

各役員に支給する役員報酬額について決定した。

第2号議案 平成27年度転入会員の承認に関する件

小林典子会員の開業支部(南第一支部)への転入が承認された。

4 協議事項**ア 平成28年度新春懇談会に関する件**

平成28年1月22日に開催する新春懇談会の進行計画について協議し、了承された。

イ 第68回定時総会開催に関する件

第68回定時総会の日程について協議し、開催日を6月8日とすることが了承された。

ウ その他

平成28年度ソフトボール大会の日程を協議し、了承された。

予 告

西支部学術講習会のお知らせ①

(獣医師生涯研修事業ポイント対象 カリキュラム番号 小3 (10))

西支部長 別部 博司

西支部では、平成28年2月14日(日)に臼井犬猫病院 臼井玲子先生をお招きして「耳科診療アップデート 耳炎撲滅にむけて…」の演題で学術講習を行います。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

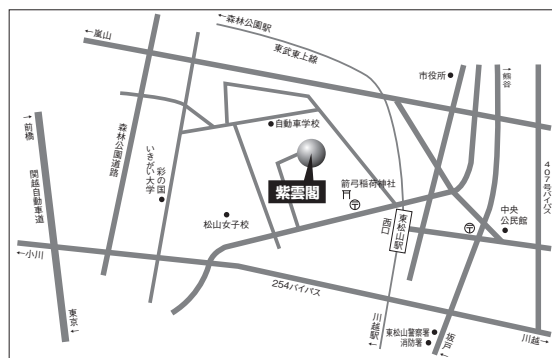
日 時 平成28年2月14日(日)
13:30～16:30 (受付13:00～)

場 所 ホテル紫雲閣
東松山市箭弓町2-5-14
TEL 0493-23-5151

演 題 「耳科診療アップデート 耳炎撲滅にむけて…」

講 師 臼井犬猫病院 臼井 玲子 先生

参加費 埼玉県獣医師会会員 無料
会員以外の受講者 5,000円



西支部学術講習会のお知らせ②

(獣医師生涯研修事業ポイント対象 カリキュラム番号 小2 (1))

西支部長 別部 博司

西支部では、平成28年3月6日(日)に病理組織診断CAPITAL代表 石原勇介先生をお招きして「病理組織診断を最大限診療に生かす為に」の演題で学術講習を行います。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

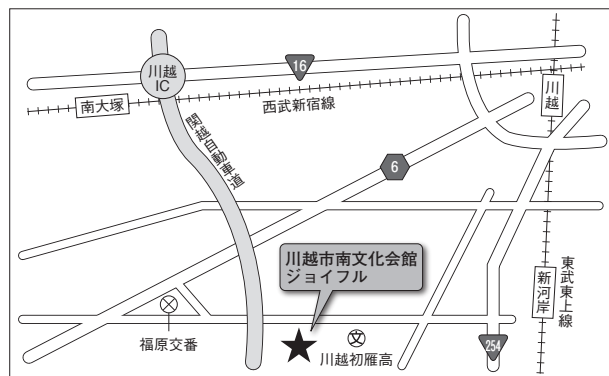
日 時 平成28年3月6日(日)
13:30～16:30 (受付13:00～)

場 所 川越市南文化会館(ジョイフル)
川越市今福1295-2
TEL 049-248-4115

演 題 「病理組織診断を最大限診療に生かす為に」

講 師 病理組織診断CAPITAL
代表 石原 勇介 先生

参加費 埼玉県獣医師会会員 無料
会員以外の受講者 5,000円



さいたま市支部学術講習会のお知らせ

(獣医師生涯教育研修事業ポイント対象 カリキュラム番号 小2 (4))

さいたま市支部長 山中 利之

さいたま市支部では平成28年3月20日(日)、鳥取大学教授 岡本 芳晴先生をお招きして「がん治療最前線」と題しまして、がんの3大治療(外科切除・放射線・抗癌剤)が選択できない症例に対するがん治療について紹介していただきます。動物の高齢化に伴い腫瘍症例は益々増加してきており、選択肢の一つとして提示していただけるものと考えております。

是非、多くの先生方にご参加いただきたいと思います。

- 日 時

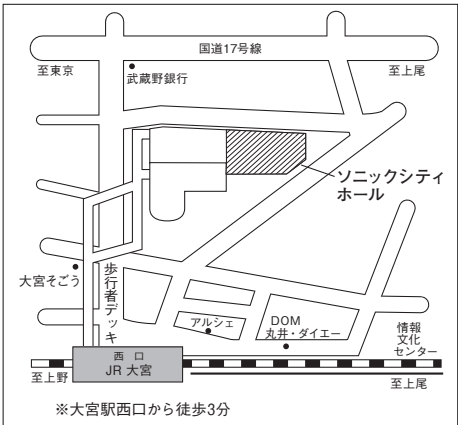
平成28年3月20日(日)
13:30~17:00
- 場 所

ソニックシティビル 906
さいたま市大宮区桜木町1-7-5
TEL 048-647-4111
- 演 題

「がん治療最前線」
- 講 師

鳥取大学 教授 岡本 芳晴 先生
- 参加費

埼玉県獣医師会会員 無料
会員以外の受講者 5,000円



新入会員報告

新 入 会 員



た な か ゆ き や
田中 志哉
久喜市在住
団体支部

勤務部会

支 部 名	氏 名	勤 務 先
団 体	田 中 志 哉	加須市 高橋動物病院

新入会員の抱負

埼玉県獣医師会に入会して

南第一支部 大野 潤
(ぽっとまむ動物病院)



病院内にて

2014年に埼玉県獣医師会に入会させていただきました大野潤と申します。2014年2月に草加市中央にて「ぽっとまむ動物病院」を開院いたしました。

私は2006年に日本獣医生命科学大学を卒業し、卒業後は千葉県山武市の「日向台ほりかわ動物病院」、松戸市の「かんじ動物病院」で勤務をしておりました。

「かんじ動物病院」に勤務していた2013年には、研修生として週に一度日本獣医生命科学大学動物医療センターの腫瘍科において皆上大吾先生のもと、腫瘍外科だけでなく細胞診や血液塗抹などの臨床病理の分野においても学ばせていただき、獣医がん学会の腫瘍認定医Ⅱ種を取得することが出来ました。現在も多く

の先生方に助けられながら、日々、臨床に取り組んでおります。

ももとは千葉県の外房にある大網白里市出身なのですが、ご縁があり現在の草加市にて開業する運びとなりました。草加市は昔の宿場町としての名残を感じられる街並みが残っていたり、綾瀬川沿いには松並木が続いていたりと自然がとても豊かなところudur。また毛長川を隔てて東京都と隣接していることから都内へのアクセスも良く、家族ともども非常に住みやすい環境で、この地を選んでよかったと感じることが多くあります。

開院して2年が経ちましたが、獣医師会の活動においては不慣れな部分も多く、ご迷惑をおかけすること多いのですが南第一支部の先生方には非常に丁寧なご指導をいただいております。今後も獣医師会を通して少しでも地域医療に貢献できるよう努力していきたいと思っております。今後ともご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

さいたま市支部学術講習会開催報告

さいたま市支部学術委員 土谷 寛

1月17日(日)、WithYouさいたまにてさいたま市支部学術講習会を開催しました。南動物病院グループ代表 南 毅生先生をお招きして「一人でできる手術編」というテーマでご講演をいただきました。

出血しない会陰尿道切開、15分の椎間板ヘルニアの手術、失敗しない会陰ヘルニア等を動画を交えてレクチャーしていただきました。

15分の椎間板ヘルニア手術は背側椎弓切除術による短時間でできる手術法を、会陰ヘルニア整復術については内閉鎖筋やメッシュ等を使用しない縫合糸による整復術をご紹介いただきました。

ご参加いただきました先生方にも多くのご質問をいただき、活発な質疑応答があり、有意義な講習会でした。

＜参加者内訳＞

出席者	さいたま市支部	南第一支部	南第二支部	西支部	北支部	東支部	団体支部	会員外
67名	36名	4名	3名	4名	2名	11名	7名	0名

西支部学術講習会開催報告

西支部学術委員 佐藤 博司

1月24日(日)、川越南文化会館 ジョイフルにて西支部学術講習会を開催いたしました。日本小動物医療センター・総合診療科・消化器科常勤獣医師・消化器科科长 中島亘先生をお招きし、『下痢・嘔吐の診療』『後半 嘔吐の診療』という演題でご講演いただきました。

明日からの『嘔吐の診療』に生かせる最新知識と薬剤の使用方法について、自身のご経験をふまえて大変わかりやすく講演いただきました。また、症例報告では各疾患における診断、治療、予後について解説いただき、御出席の先生は真剣に知識を吸収していました。

全2回にわたり下痢、嘔吐の診療について、限られた時間の中で1つでも多く役に立つ知識を伝えたいとの熱意ある講習をしてくださった中島先生とご参加いただいた先生方に心より感謝申し上げます。

＜参加者内訳＞

出席者	さいたま支部	南第一支部	南第二支部	西支部	北支部	東支部	団体支部	会員外
45名	2名	2名	1名	32名	1名	0名	4名	3名

お知らせ

平成27年度 日本獣医師会委託講習会 (小動物臨床：東京都担当) 開催のお知らせ

日本獣医師会の委託による東京地区講習会が下記のとおり開催されますのでお知らせします。

日時 平成28年2月7日(日) 午後2時～午後5時

場所 新宿NSビル 3-J

新宿区西新宿2-4-1

講演内容 (1)狂犬病の診断について

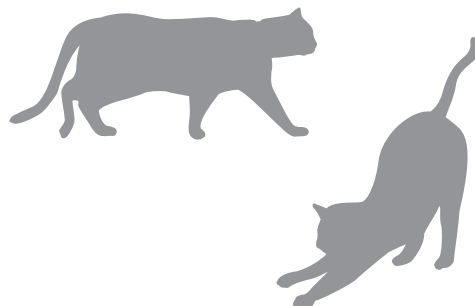
講師 佐藤 克先生

東京都獣医師会危機管理室感染症セクション長

(2)狂犬病予防推進に関する法的側面

講師 岩本百合子先生

東京都福祉保健局健康安全部環境保健衛生課動物管理係



平成27年度 日本獣医師会委託講習会 (獣医公衆衛生：神奈川県担当) 開催のお知らせ

日本獣医師会の委託による関東・東京地区講習会が下記のとおり開催されますのでお知らせします。

- 日 時** 平成28年 2月14日(日)
午後1時30分～午後4時45分
- 場 所** 藤沢商工会館 ミナパーク 6階 多目的ホール 2
神奈川県藤沢市藤沢607番地1
電話：0466-27-8888
JR東海道線藤沢駅北口から徒歩 3分
江ノ島電鉄藤沢駅から徒歩 5分

講習内容 (1)生物多様性と動物園

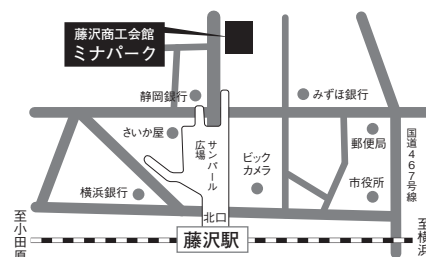
講師 福田 豊 先生
公益財団法人東京動物園協会多摩動物公園園長

(2)小笠原・御蔵島等自然環境保護対策（野猫対策）について

講師 中川清志先生
中川動物病院院長、東京都獣医師会理事

参加を希望される先生は、事前に埼玉県獣医師会事務局まで御連絡ください。

電 話 048-645-1906
F A X 048-648-1865
メー ル s-vm@vesta.ocn.ne.jp



横浜市獣医師会「市民フォーラム」開催のお知らせ

横浜市獣医師会主催の講習会が下記のとおり開催されますのでお知らせします。

- 日 時** 平成28年 3月6日(日)
午後1時30分(受付：12時30分)～午後4時30分
- 場 所** 横浜市社会福祉センターホール
横浜市中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター 4階
電話：043-202-0800
JR千葉駅東口より徒歩 3分

講習内容 (1)動物園をもっと楽しむ

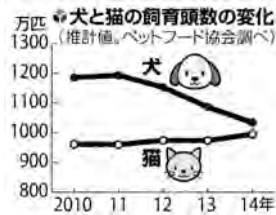
講師 村田浩一先生
日本大学生物資源科学部動物資源学科教授、
横浜市立よこはま動物園ズーラシア園長

(2)繁殖センターって何？

講師 五十嵐隆先生
横浜市動物園課／公益法人横浜市獣医師会



切り抜きニュース

自由気まま
猫人気上昇

八重洲ブックセンター本店(東京都中央区)の写真集コーナーには、約100種類もの猫の書籍が並ぶ。一方、犬は約30種類。同店の広報担当、高杉信二さんは「10年前は犬の方が多かったが、2、3年前に犬と猫が半々になり、あっという間に猫が追い抜いた。今は、気ままな野良猫の写真集などが好評です」と話す。同店では、来年のカレンダーも犬より猫のほうが1.5倍ほど売れている。

「犬の書籍やカレンダーの多くは犬種ごとに分かれているが、猫はそうではない。幅広く売れます」

インターネットの動画投稿サイト「ユーチューブ」も、「猫」で検索すると、犬の約1.6倍の388万件がヒットする。カメラに反応しがちな犬に比べ、猫は撮影に無関心でマイペースに振る舞う。箱にすっぽり入ったり、物音に驚いて跳び上がったたり、飼い主が様々な姿を投稿している。

月刊誌「ねこのきもち」(ベネッセコーポレーション)の編集リーダー、真辺陽子さんは「素っ気なかったり、甘えたり。気まぐれで自由な猫の行動は、予測不能で面白い」と説明する。

エンターテインメントの世界でも、猫は人気だ。スマートフォン向けゲーム「ねこあつめ」は昨年10月に配信が始まり、1000万ダウンロードを突破。CMや映画でも猫が目立つ。真辺さんは「猫カフェも各地にでき、今まで飼ったことがない人にも猫の魅力が広まった」と分析する。

猫関連の書籍やグッズの売れ行きが経済にプラス効果を与えるとして「ネコノミクス」とも言われるようになった。背景には、ペットとしての猫が現在の日本人のライフスタイルに合っていることがある。

ペットフード協会(東京)の調査によると、2014年の飼育頭数(推計値)は、猫は13年より約22万匹増え、995万9000匹。一方、犬は1034万6000匹で減少傾向にある。

「夫婦共働きや高齢者世帯が増加し、手間のかからない猫のほうが好まれるのでしょう」と同協

会名誉会長の越村義雄さん。猫は散歩に連れていなくてもいい。昼間、飼い主がいなくても、ストレスがたまりにくく、近所迷惑になるほど大声で鳴くこともない。

人と動物の関係を研究している東京農業大教授の太田光明さんも「米国、フランス、ドイツなど夫婦共働きが進んでいる欧米諸国では、犬より猫の飼育頭数のほうが多い」と話す。「日本では、犬の飼育頭数が減っているため廃業するブリーダーが目立ち始めている。このため、犬の価格が上昇。さらに犬を飼う人が減るという悪循環に陥っているのではないか」

日本では、人気があるペットの種類が目まぐるしく変わる。越村さんは「ブームに流されて安易に飼うのではなく、自分の生活スタイルにどんなペットが適しているかよく考えて飼ってください」と呼びかける。

(山村 翠)

読売新聞 12月29日(火)

パリで活躍「猫の画家」
藤田嗣治「犬も好き」

猫好きで知られ、パリで活躍した画家・藤田^{つぐ}嗣^{はる}治が、犬も好きだと記した約80年前の寄稿や手紙が見つかった。近年、評伝や画文集の出版、復刊が相次ぎ、その半生を描いた日仏合作映画「FOUJITA(フジタ)」の公開で注目される異才。藤田の研究者は「犬好きを公言した文章は、研究者の間では知られておらず、貴重な資料」としている。

1920年代のパリで、藤田嗣治を有名にした裸婦像や肖像には、猫が名脇役として登場する。自画像では、ロイド眼鏡におかっぱ頭の容姿と、一緒に描かれた猫が、藤田の印象を決定づける役目を果たした。「猫の画家」とも呼ばれ、パリの猫の展覧会で審査員を務めたこともある。

今回見つかった寄稿は、「フランス人と犬 日本人はまだ犬の愛し方が足りない」の題で、1935年2月発行の犬の専門誌「犬の研究」(廃刊)に挿絵とともに掲載。東京農工大の図書館に所蔵されている。

文中、藤田は「私も犬は非常に好きだ。それだけに犬の死を考えると淋しくてならぬ。普段仕事

が忙しくて充分犬の世話を焼けぬ私は、殺すまいとして飼う気になれないのである」とつづる。さらに「日本犬のあるものは天然記念物に指定されたが、例えば秋田犬など純粋なものを作って、向こうへ送りたいものである」と、日本犬のPRも提言している。

一方、藤田が秋田市の美術収集家・平野政吉(1895～1989年)に宛てた2通の手紙には、藤田の秋田犬とのかかわりが記されていた。ともに37年3月10日の消印で、3日前に秋田市で大作「秋田の行事」を完成させた藤田が帰京してすぐ、東京から送った。1通は平野からもらった秋田犬を東京に無事連れて帰り喜んだのもつかの間、周囲から戌年(いぬね)の主人が犬を飼うと主人か犬のどちらかが死ぬとの迷信を聞かされ、飼育を断念したと報告。もう1通は封筒に「大至急」とあり、「どうか秋田犬うまく帰るよう祈ります」と上野から列車に乗せて秋田へ送り出したと書かれていた。

手紙は平野の三男で、秋田市の公益財団法人平野政吉美術財団理事の政高さん(69)が、25年ほど前に複写して手元に残していた。

藤田研究の第一人者で、文化庁の林洋子・芸術文化調査官(美術史)は「犬の専門誌への寄稿は初めて知った。秋田犬の飼育を断念したのは、迷信を信じたかもしれないが、多忙で都会で飼うのは難しいと判断したとも考えられる。当時、新居を普請中で、それが影響したこともあり得る」とみている。

藤田嗣治 1886年、東京生まれ。東京美術学校(現東京芸術大学)卒業後、1913年に渡仏。パリ・モンパルナスの芸術家集団エコール・ド・パリを代表する画家となった。ピカソ、モディリアーニらとも交友があり、33年に帰国。49年に日本を離れ、55年に仏国籍を取得、68年に死去した。

読売新聞 1月5日(火)

卵値上がり中 えさ代高騰、「優等生」返上?

価格があまり上がらないことで「物価の優等生」

と言われてきた卵が、値上がりし始めている。昨年は最近10年では最高値となった。鶏のえさ代の高騰が影響しているという。

東京都練馬区のスーパー「アキダイ」。普段はMサイズの卵1パック(10個入り)を198円で売っているが、昨年11～12月は10円値上げした。卵の需要が高い冬場を迎える11月の値上げは珍しくないが、200円を超えたのは初めて。秋葉弘道社長(47)は「卵は商品価格のバロメーター。値上げすると野菜や果物まで高いと思われる」と客離れを心配する。卵を買った主婦(75)は「毎日使う卵の値上げは年金暮らしには厳しい」と話した。

消費者物価指数をみると、食料品全体の価格は約45年前の約3.2倍。一方の鶏卵は約1.6倍と上昇幅は緩やかだ。だが、JA全農たまごによると、昨年は、指標となるMサイズ(1キロ)の平均卸値(東京市場)が228円。値上げは3年連続で、平成に入ってから1991年の248円に次ぐ高値だという。

卵を使った加工品も値上がりし、キューピーは昨年12月1日出荷分から、オムレツや厚焼き卵など業務用の加工品220品目を2～7%値上げした。ケンコーマヨネーズも、ゆで卵やタマゴサラダなどの加工品を数%値上げした。同社の担当者は「数品目の値上げはあったが、加工品全般の値上げは初めて」と話す。

卵が高くなったのは、輸入に頼る鶏のえさの価格が円安で上昇したのが原因だ。農林水産省によると、昨年6月の配合飼料1トンあたりの平均価格は6万8469円。10年前より約5割高い。生産コストが増したことで、小規模な養鶏農家を中心に離農が相次ぎ、生産農家は10年前に比べて4割減の2569戸となったことも影響しているという。

卵の供給が減る一方で、需要は高まっている。日本養鶏協会によると、コンビニエンスストアでのおでんだねや、外国人観光客の増加で稼働率が増加したホテルで出される朝食用に需要がある。都内の鶏卵卸売会社では、ホテル向けの出荷が好調で前年比5%増だという。「外国人旅行客が増え、ゆで卵やオムレツなど卵を使った食事が求められているようだ」と話す。日本養鶏協会の担当者は「鶏の数は増えていないので、今後も高値は続くだろう」と話す。

(渡辺洋介)

朝日新聞 1月7日(木)

平成27年度埼玉県獣医師会学術広報版

(平成28年1月20日現在)

年 月 日	産 業 動 物	小 動 物	公 衆 衛 生
6月14日(日)		北支部 「麻酔モニタリングを読む」 山口大学 井芹 俊恵 先生 (熊谷市 熊谷市立商工会館)	
6月14日(日)		東支部 「とにかく尿検査、尿検査、尿検査！ 腎性蛋白尿を軽んじてはならない！」 日本獣医生命科学大学 竹村 直行 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	
6月19日(金) ～21日(日)	第90回日本獣医麻酔外科学会／第102回日本獣医循環器学会／第57回日本獣医画像診断学会 2015春季合同学会 (さいたま市 大宮ソニックシティ)		
7月5日(日)		東支部 「皮膚科診療でペットオーナーの心をつかむ ～継続診療につながるインフォームド・コン センストをしていますか～」 犬と猫の皮膚科 村山 信雄 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	
7月19日(日)		南第一支部・南第二支部 「動画から学ぶ！犬および猫の下部呼吸器 疾患について」 日本獣医生命科学大学 藤田 道郎 先生 (さいたま市 埼玉会館)	
9月13日(日)	平成27年度 関東・東京合同地区獣医師大会 (横浜) 獣医学術関東・東京合同地区学会 (神奈川県横浜市 パシフィコ横浜)		
10月4日(日)		北支部 「こんな心電図に要注意！ ～症例から見る心電図の読み方～」 麻布大学 藤井 洋子 先生 (熊谷市 熊谷文化創造館さくらめいと)	
10月16日(金)	北支部 「子牛の免疫についてⅡ(離乳 ～育成期)」 酪農学園大学 大塚 浩通 先生 (熊谷市 熊谷家畜保健衛生所)		
11月3日 (火・祝)		南第一支部・南第二支部 「難治性の下痢・嘔吐の診断・治療・予後(1)」 日本小動物医療センター 中島 亘 先生 (川口市 川口総合文化センター)	
11月8日(日)		東支部 「肝・胆・脾の診断と治療」 日本大学 坂井 学 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	
11月29日(日)		西支部 「下痢・嘔吐の診療 (前半 下痢の診療)」 日本小動物医療センター 中島 亘 先生 (川越市 川越南文化会館)	
12月25日(金)	農林支部 平成27年度埼玉県家畜保健衛 生業績発表会 (さいたま市 さいたま共済会館)		
平成28年 1月17日(日)		さいたま市支部 「一人でできる 手術編」 南動物病院グループ代表 南 毅生 先生 (さいたま市 With You さいたま)	
1月24日(日)		西支部 「下痢・嘔吐の診療 (後半 嘔吐の診療)」 日本小動物医療センター 中島 亘 先生 (川越市 川越南文化会館)	
2月	農林支部 関東甲信越家保業績発表会		衛生支部 健康福祉研究発表会 食肉衛生技術研修会
2月14日(日)		西支部 「耳科診療アップデート 耳炎撲滅にむけて…」 講師 臼井犬猫病院 臼井 玲子 先生 (東松山市 ホテル紫雲閣)	
2月26日(金) ～28日(日)	平成27年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (秋田) (秋田キャッスルホテル、秋田アトリオン、にぎわい交流館 AU)		
3月6日(日)		西支部 「病理組織診断を最大限診療に生かす為に」 病理組織診断CAPITAL代表 石原 勇介 先生 (川越市 川越南文化会館)	
3月20日(日)		さいたま市支部 「がん治療最前線」 鳥取大学 岡本 芳晴 先生 (さいたま市 ソニックシティ)	

事務局メモ

ホームページ会員専用ページ 入室は URL <http://www.saitama-vmc.org/>

ID: SVMC (半角・大文字) パスワード: MITSUO (半角・大文字)

- | | | | |
|--------|---------------------------------------|-----------|---|
| 12月25日 | 平成27年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会(さいたま市 さいたま共済会館) | 2月6日 | 埼玉県医師会賀詞交歓会(パレスホテル大宮) |
| 12月28日 | 仕事納め | 2月7日 | 関東・東京合同地区獣医師会理事会(横浜市 ホテルニューグランド横浜) |
| 平成28年 | | 2月11日 | 埼玉県獣医師会ボウリング大会(さいたま市 スポーツ浦和国際ボウル) |
| 1月4日 | 仕事始め | 2月14日 | 西支部学術講習会(東松山市 紫雲閣) |
| 1月6日 | 豊かな埼玉をつくる県民の集い(さいたま市 パレスホテル大宮) | 2月19日～21日 | 第12回日本獣医内科学アカデミー学術大会(神奈川県横浜市 パシフィコ横浜) |
| 1月12日 | 知事と農林水産業団体長との懇談会(さいたま市 知事公館) | 2月26日～28日 | 平成27年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会(秋田)(秋田県秋田市 秋田キャッスルホテルほか) |
| 1月13日 | 日本獣医内科学アカデミー関係学術懇談会(さいたま市 大宮ラフォーレ清水園) | 3月1日 | 畜産懇話会(熊谷市 ホテルヘリテージ) |
| 1月17日 | さいたま市支部学術講習会(さいたま市 With Youさいたま) | 3月1日 | 埼玉県畜産会役員会(熊谷市 ホテルヘリテージ) |
| 1月17日 | さいたま市支部新年会(さいたま市 ブリランテ武蔵野) | 3月6日 | 西支部学術講習会(川越市 川越南文化会館) |
| 1月17日 | 南第1支部新年会(さいたま市 高砂) | 3月20日 | さいたま市支部学術講習会(さいたま市 ソニックシティ) |
| 1月17日 | 西支部新年会(川越市 川越プリンスホテル) | 6月8日 | 埼玉県獣医師会第68回定時総会(さいたま市 大宮ラフォーレ清水園) |
| 1月17日 | 北支部研修会・新年会(深谷市 埼玉グランドホテル深谷) | | |
| 1月22日 | 平成28年新春懇談会(さいたま市 大宮ラフォーレ清水園) | | |
| 1月24日 | 西支部学術講習会(川越市 川越南文化会館) | | |
| 1月24日 | 東支部新年会 | | |
| 2月3日 | 平成27年度埼玉県狂犬病予防協会研修会(桶川市 さいたま文学館) | | |
| 2月3日 | 所得税確定申告・相続等個別相談会(さいたま市 埼玉県農業共済会館) | | |
| 2月5日 | 損害評価会家畜共済部会(さいたま市 埼玉県農業共済会館) | | |

編集後記

あけましておめでとうございます。今年の元旦は暖かく雲一つ無い晴天に恵まれ素晴らしいご来光が拝めました。皆様方にとって、より良い一年であります様お祈りいたしますとともに、本年もよろしく願ひいたします。

成人の日の1月11日に浦安市の松崎市長が新成人へのお祝いの言葉で、日本産婦人科学会の言葉を引用して「出産適齢期は18歳から26歳を指すそうで、成人式を迎えた若い皆さんには大いに期待したい」という何とも頼もしい挨拶だ。浦安市は、産後の母子をケアする事業として大学病院と連携し凍結保存に関する研究を支援して少子化対策に力を入れているそうである。

一概に人と家畜を比較出来ないが、同じ哺乳動物だ。長い間、豚と付き合ってきたが、母豚が4～5歳齢位から歳を増すごとに産子数は減少し子豚は不揃いになり、ヒネ豚が増えて経営を圧迫する。豚も若い方が子豚の大きさが揃っていて産子数も多く発育率も良いのだ。

出産適齢期という言葉に初めてお目にかかった。人口減少が止まらない中で成人式のお祝いで、こういう言葉まで使って市長が挨拶しなければならない日本の行く末が心配だ。

狂犬病予防委員会主催の集合狂犬病予防注射実施者講習会と賀詞交歓会並びに高橋会長の埼玉文化賞受賞報告会が1月22日に開催された。会員の参加者は120名を超えました。

皆様には大変お忙しい中で参加いただきご苦勞様でした。日程が詰まっていた中で大きなイベントの開催を無事に終了し高橋会長並びに事務局の方々には大変お疲れ様でした。

北村直人日本獣医師政治連盟委員長と酒井健夫日本獣医師会副会長には今後の獣医界にとって非常に大切なお話を頂いた。

その中で北村委員長のお話からは、「獣医師の職業をも政治が動かすのだ」ということが理解でき、政治に無関心ではいけないことを痛感した。

賀詞交歓会や総会などで多くのご来賓に参加いただいているということは、我々の職業について来賓の方々に関心を持っただけという結果であり、このことは高橋会長をはじめ、藏内日本獣医師会会長や北村委員長等の努力のお陰です。お越し頂いた来賓の方々に、地元の獣医師の先生方を探している姿もありましたが、狂犬病に限らず我々の職業が国民生活に深くかかわっているなか、政治との繋がりをおろそかに出来ません。会員の先生方には折角の機会なので地元の政治家の皆さんとの親交を深めていただきたい。

酒井日獣副会長のお話では、各獣医大学が大改革を余儀なくされている様だ。先進国を自負する日本には、世界水準の獣医大学でなければならないはずである。内部の反発もあるだろうが、世界と肩を並べたい、遅れは取りたくない。そのためには卒業生の我々が大学に改革を促すよう働きかけなければいけない。

第12回日本獣医内科学アカデミー(開業会員には補助があります)がパシフィコ横浜で2月19～21日まで、日本獣医師会の年次大会が秋田市で2月26日～28日まで開催されます。寒い中ですが奮ってご参加ください。

また、16日から27日にかけて、日本中が沸いた。ドーハの悲劇から23年、今回はドーハの歓喜で日本中が沸いた。リオデジャネイロのオリンピックまで楽しみが増えた。2月11日に厚生委員会主催のボウリング大会が開催されます。年の初めとは違い大変寒い日が続きますが、皆さん、健康には充分気を付けて春を待ちましょう。(不動)

あのおいしすぎるノミ・マダニ駆除薬に
フィラリア症予防もできるオールインワン新登場。

NexGard SPECTRA[®]

ネクスガード スペクトラ[®]



® ネクスガード スペクトラはメリアルの所有登録商標



かわいすぎる相棒に、
おいしすぎる愛情を。



日本全薬工業株式会社
ZENOAQ 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1



メリアル・ジャパン株式会社
東京都新宿区西新宿 3-20-2

動物 未来 みつめる ひろがる



動物用医薬品 製造販売

日本全薬工業株式会社

福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

代表取締役 高野恵一

URL : www.zenoaq.jp

胃腸と皮膚が気になる小型犬のための総合栄養食

Dr. CREDO No.1
ドクタークレド

- 食物アレルギーの原因となりにくい米と鶏肉を使用
- 優れた栄養バランスで皮膚・被毛の健康をサポート
- 健康的な腸内環境を保ち抵抗力を維持
- 抗酸化成分配合で毎日の健康を維持

本製品は小型成犬の健康維持をサポートするフードです。

『ドクタークレド』は、人の食品と同等基準の品質と安全性に、美味しさをプラスした動物病院専用フードです。
タイの世界的食品メーカー「ベタグロ社」の GMP・HACCP・ISO の認定を受けた工場で製造しています。



森久保薬品株式会社

神奈川県厚木市栄町1-8-17 TEL: 046-222-2333
東京: 03-364-2381 埼玉: 049-984-0881 三重: 056-942-2112 神奈川: 046-221-0620
つくば: 0296-43-1681 山梨: 055-224-5278 群馬: 027-230-3122 栃木: 028-609-3599
茨城: 029-241-3731 鹿嶋: 0476-40-5811 茂原: 0475-24-1813



日本獣医師会・獣医師会活動指針

－ 動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。－

- 1 地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方（One World-One Health）が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。
- 2 一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。
- 3 他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興・再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。
- 4 我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領－獣医師の誓い－95年宣言－」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている。
- 5 獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

【参 考】

「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WSC）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。